

藪内清氏朝日文化賞受賞



▲ 昭和44年度 朝日賞贈呈式
(朝日講堂にて、昭和45年1月15日)
朝日賞をうける 藪内 清氏(右側)▶
(詳しくは本誌1970年2月号残像 参照)



—朝日新聞社提供—

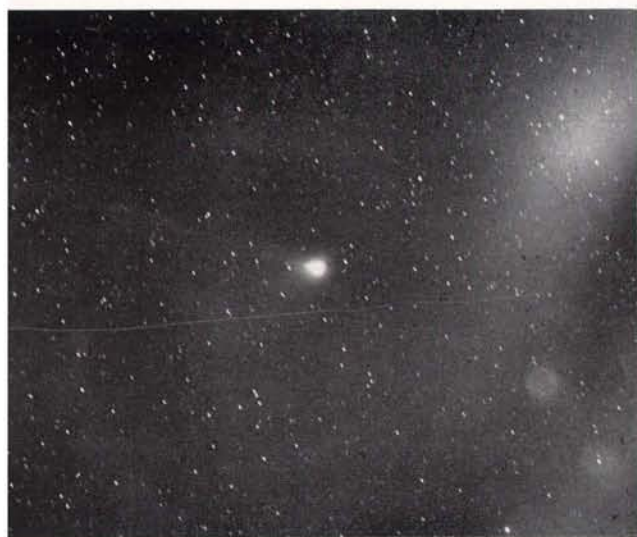
1970年2月4日

▼ 19時59分00秒より10分15秒間露出

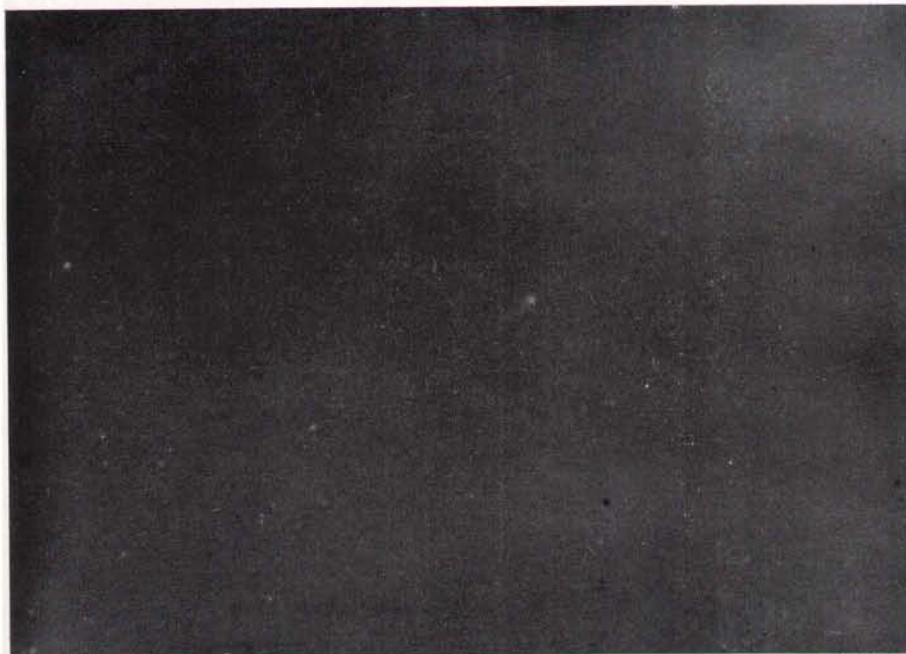


▲ 1970年1月29日

20時36分00秒より10分間露出



今年最初の新彗星 大道-藤川彗星 (1970 a)



◀ 1月27日朝に群馬県の高井清高氏、1月28日朝に宮城県の大道路卓氏と香川県の藤川繁久氏によって発見された新彗星。高井氏は28日朝に再観測して確認の後、東京天文台宛に速達便で連絡された。しかしその到着が30日朝であったため、I.A.U. 天文電報中央局への東京天文台よりの連絡は前記2氏に関するものよりおくれ、高井氏の名前は付けられないことになった。しかし最初の発見者は高井清高氏であることに変わりはない。なお藤川氏にとっては独立に発見した4箇目の彗星である。

(写真は1970年2月4日堂平観測所にて撮影)



▲ 1970年1月27日19時35分00秒(JST)より10分間露出、乾板は以下いずれも103 a-E、フィルター Y 50 使用、写真の視野は横方向で約4°、上が北、右が西方向、東京天文台堂平観測所50センチ彗星写真儀にて撮影

1970年1月28日

▼ 19時35分00秒より10分間露出



その後の多胡-佐藤-小坂彗星 (1969 g)

水沢緯度観測所

正面のドームのある本館に続いて東側（写真左側）に実験棟があり、屋上には超長波受信アンテナが設置されている。本館の南（写真上方）約120mに北緯 $39^{\circ}08'03''$ の緯度線があり、国際極運動事業に参加する望遠鏡群がある。西（写真右側）から防風金網に囲まれた浮遊天頂儀、眼視天頂儀、旧眼視天頂儀、写真天頂筒、赤道儀ドームおよびかなりはなれてダンジョン・アストロラブの順に並んでいる。

